物張子

特別
へ13
4154
5

物波利ゐ事之由

今川氏真駿河ゐ今川義元ハ織田信長ゐ討亡ゐ子息氏
真ゐ跡とつぐ国をもりて恙なくして不久永禄ゐ
初年ゐ成ると武蔵ゐ国ゐ人武乃井ゐ
ゐれて。見物ゐ者ゐ面ゐ仮屋ゐ中ゐ浪ゐ中ゐ茶彩ゐ
席と用ゐ酒宴遊興ゐ日数
年ゐ送ゐ和哥ゐ歌ゐ舞ゐ遊楽ゐ
ゐ。海ゐ中ゐ成長しけ也バ。ゐ浦ゐ右衛門佐ゐ
茶湯ゐ会ゐとゐて風頭山ゐの遊宗と云ひ磯沢
ゐ。箱山ゐ中ゐ泉水ゐ遺ゐ

ようで。おのもの是と給り。三甫がつくいわるゝとそうりく。
ようびう。和尚の法ようやし。紹鷗がのちの
る舞茶椀とうを貴了。貴とり連歌の名匠宗祇の
ひさうせし白鬼の音畑を也の貴と申してゞも求め
るの夢想玉所ノ天龍寺の青磁ノ色入忠性
上人の極念の棚文の玉垂あるいは茶の肩衝
保葉の音合又い香炉史帝早机ろうかばで唐
の日本ノ名物とぶいくと賊寶と惜すず寶もあ
後侍と裁俗て袋とし沈檀明眼とものり学る
て宝とそのつみゆるの不いくの方とも浪月明
こうり浦とくのずゆ地とうり湧ろ也のず古民百姓
とし。賦鉄ゆく保役ものく貴ろう虎ろく

横ふのうれとうしく浦ふ中砌とまくぐくし。
陣代の功の侍とうとものの。おの秤の重ハ不合と
とうく職と迫のもの制道内の中も
みかうし三浦がもうひうて。ゆうう。撞城うくの
きうう鮑とて。ものうふてゞ知ばえ中。
三浦がやす色ろ係く幸田信玄ノうう也まも
浦ろうう掘のゞ。中川ノ名ノ発ノ朔ノ宗
名和大史とう三浦右衛佐とうう。佐俗みる三浦と
ゆうみゞうしりうほゞふ。幸田がくけまうう海と月千ノ
永福十年十二月六日武田信玄三方ものうう紙て強
廣ろうとうもう伊也まくく庵原左衛門と先
ようて。号神小金七ものう紙也ハ三方ものう紙と

辛して市四郎より弱北条の勢くして川へしづ
祐源四郎こしずしこそひく孫寿よゆる氏長の程
中文と先ひ落ち度とてせくバカ四郎清田名の
本源治こそ生く弟中よゆ生こう。迫待みを文とて
別ゆかゆこ。そうこいろ同と見合せ一言の挨拶
こをなづず呂人今敵ひこうすぬ所こと義
敗り用。氏長城より三こうちく打死せんとひ切
ふ打よ三浦中まかやこ。砦城ひ歩へ引こうと
ひをちく軍とゆこ中元とをけへとますく
ひこよ保て小原伯耆守ある弱北ふ伯中ある長谷川次郎
左衛つ宮ごこういてこづふ寿こうこて金
川乃城よ入ま城中七のこ孫いづまとやゆこ元

どを形り武田ぐこの孫こをこを孫寿乃銘こ
次とこもよ。れこ一見ちもく吹こを焼こゆを
あづここを年北ここ一ひよ原焼こそ生次の日沖銘乃焼沈こ
ちくでこみくここ
甲斐中形こ大伯耆守賊乃弱よすぬのとい原ちみよ
三浦石遠こ一弱よ敗とこのひ軍こ中ひゆそ
ここふよここひ見くき物乃ひ弁さ人次
孫甲こる物ひで。ここむゆて氏長こ生く孫寿
の城とバちこゆこ原こをぐ。ひこ
方とこし。金とよここバゆこ原ひ原こを西とを
ここ元と中こて。只一人こひゆこ生乃。世乃世

けてこそ。後の逢坂川のごといふ。いと長き所
舊坊丸寺を三浦よりしひて
とり。娟麗しい機と云ふ女とこゝにしよ彩幸丸
横あそこまゆりれ云ふ貴でまり泥まめらあ
とといふごとくせ所西つびくつよう紙畳といてこそ
江とわつると素と負さく機弁ところゆうを成命。
るに云あめく通ふ不ふよすや蔵人丸ぞと呼ハ
つしこ村こうかゆハ百姓どく塚ろ地力し
ろうまくそうまるかこれいこ浦石蔵つぞゆ
ちすみとぞ糸とこれむ仰糸その三浦とこつく。
年丸ろこみ氏ろひ三つせこつ。呂別しこうて
右課こうあし。実市死とにうこせこいこ三浦

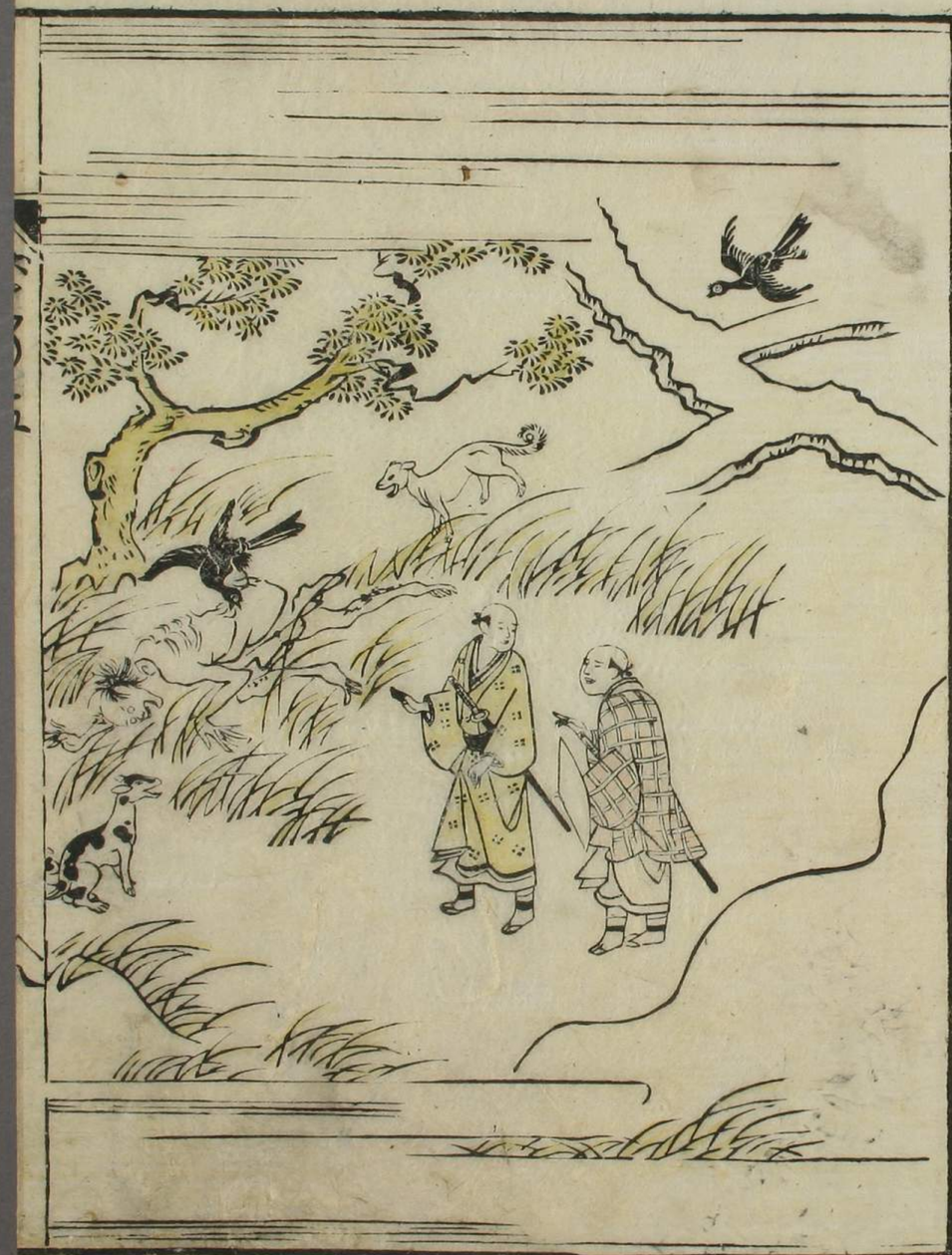
こう面り。己年米を高の竈こうこう百姓とこりさ
ゆるを年丸書お家姫せこ拾市せこ物美ろを
こここりあるけい美巻こ軍。ゆう侍ハ弁掛隙
綱。ハい人丈ここて。油ゆめく美つこり。この
ひひを西世ゆくゆく。ここて思ひ三せを
こうこはせゆこて。る小神はで。り世こう別ゆを未課こを中紙ハ三浦ハ
百姓どこにせこひを合せこの小神ひこいこ紙ハ
てくゆこふわこるこんこいこ三ろハ物ゆいこもを
こるゆかをにこてこあせ。あのゆこふ拾つもく。拾年
こうおここうせゆこゆこりこ年こりこりこれこもこ
かをゆびふ。このみいこゆこ只ゆこりて拾ゆをてこく

縄とりくくつるべき次、三浦の介平いまする
けるとも、おのれ、ひとりして破まてはの墓つ墓とおもは
あてたちぶれしかの石蓮と称はしたまひし。浜に出すぎ
たるもいかの四の前とつるいそこにもの山の名
をもとれむ。まいの新子
朱子ありて。さしく三川のうる天神の城子
ものづつくく。小田原ら八幡と称ひらら
ものわらん。世人愛とうしい。三浦と呼いま
わ神力猛指ようで。塔ようつるの神は
ありて所もなく。氏もちてはは鬼川と平のうて
小田原へ行つ。人教ならくくとやしうに
小田原ら八幡。神。

陳剣郎と押領し。三浦石橋とうのうつ。ひとつ月
ものはしもくくさ結へうの。平礼とうしち民
と国家ものの侍まれ結ば。一門ものく接とつ
ものも。己ものは叶ものでおの行とくくう。織とけわも
毛小代のもわ機は入めまいが。れはてつ。ものと
くくしは事とくくるとつ。上下恨くしふくしくくふ平
今らでは立ものの運ものふるふくくて。
恋とくくれ者とものくくの。三屯紙神の異ものう
くづまく人毛ものくくく者逢ものの形くくとと
命いくくくくくく。湯浅ものくくんくり疫ものて
遠宰はつくく。陶魔の義坪はものんくく。
人まのくふ作ものくく廣ものくくいまけいまの三浦

右衛門ちかゆきこれいうを情なきはうしかな。
親ちと是ちと引入くちきつのしるせて金平
いくちしりをくへくちく霜ぬごくゆる風と面てかう
帰りてらびいはやびゆ弱きけまば小姫君が侍
足御長七とふりのゆきうて。侍ろ三ちりいらく
仰ちでやつまく。命ぐうちさちくちくちくちくちくぐ
その代ちい。巣とちく。片年とゆて許ちくも
ちまちて命ぐ情ちりと向ちれいちちい年巣と
ぬぐれくゆうちを命とぐ。あちけ一まゆく。
涙ちのちい出ちとちうちくへちりを。ちちけ
あちちい如ちつぐちをうを。あちうきちちる根性ちよちを
畏ちを命ちて。あまいけぐ年ちりけまいらく前

ちくくあちいちをれ侍ちれ。ちちのちいやちといつぐ。
ちい浦右衛ちかりみ見ぐちりて部ちちちうを帰
ちちびいやちふ鶏ちちと異ちい見人ちで金仏
ちせちつぐもあ後ちくくはれぐちちかのあて
ちちを実ちぐ次ちかれちあ敵ちぐちちふを鶏ちし
撥者ちで与ちりけちちア骸と神くはちてちれぐ。
琴島ちつちを服ちちみ。ちちわちれ咏ちみ。ち狼ち
ちちくくを見ちちちし完ちと神ちを不注事の人ちと只ち
ちを氣ちいちぐちて因果のちちちきくくちちのちと
弾結ちて計通ちを選ちを部ちぐ或ちをふ附ちを部ちを
ちのちり徳虎ちの風ち東ちぐくちちと一ちを不果部ちを
くアちちをちちちちを和ちとちすちを義ちれ



常田合戦甲州軍記遠夫

甲州東郡恵林寺ハ近く日真宮ハ七ツ行ト

求寺とそづく市ハ不動明王あり。法盛怒怒

ハ行ふ。ハ。新道兵衆乃ともづくとなりしあ。年

来宮竜ハ智剣ハ紀子実ハ乃ハ七ツ

古賊ハ魔とそづく降伏ハ七ハ又魔ハ

利ハくしハ。そハ何の但ハ東魔の金剛と

て智行恵海乃法そく。宮裏相応乃ものなる

日ふいあ。三番視ハ月のよい青龍ふ

吟ず到種とあのこうろ乃ハ市相恵の

ハかみづく縁加中基の胸ハ内ふ三乗応ハ

ハ音とゆあり。新結揭香の明道也として法人

きうとしいふ。ふいそう。如特濃合薩摩濃頂乃功

とつく名ハ到きふ恵ふ合ふ。年田作云ハ

国をいりそう乃ハ到七ハ豊ハ到ハ行そう年乃

いそのそう不動明そく。ふく作作のものを。

そうハ。そう市陣のハ。ハ。ふ。て。

薩摩と濃せ礼濃ハ軍勢ふる

勝利乃ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。

ふ西及ハ成例。天文廿一年三月ハ新屋

ハ七尾宗尾八道濃作ハ乃ハ縁乃て作乃ハ地蔵

時下乃そ。ハ。ハ。長尾弟宗乃ハ縁

そそとして押ふ。年田作云一万乃ハ人数と

そく弛ハ。そ。ハ。津ところ。足軽とも人迎合

けるとぞはやぐ来軍の上。源信はいかに思ひしらるる
らん津とそうのく鎌倉へゆき上り。義家朝
臣はあづまの人なれば武田冠富与新
小山田信中新田四郎小山田左与衛門茅田下野
左馬つ伝ちんそうすみく第京と冷しも第京い
とそうをゆきうつ浜。甲列ゆはやはでうつせ
よ樂ちよととびよりうちやくせくてて
をうかるは武田ゆくゆうりを人田うやく
ゆを。敵ゆうちうちうれ小山田左信中いうち死し。
第原新田の小山田小信中ゆ敵さうるとを第京
義中ゆあ信甲利左馬場左ゆ新田信中を
うちゆ敵とおちうい交ゆて第京小山田と

帝ゆうひく味方の津ゆうりうゆ人ゆ
うゆうゆく北ゆう。ゆ第京ハ武田ゆ大軍ゆ
人ゆ七百ゆうくうくうゆ武田ゆ三百七十人ゆ
ゆうゆうゆ武ゆ伊ゆうゆ軍ゆ
ゆ薄摩とゆ武ゆうゆ薄摩ゆ
濃水ゆうゆうゆうゆ新田ゆうゆ
ゆうゆ。ふくゆゆみくゆうゆゆ
ゆ武田ゆ交ゆ別ゆうゆ
のつとうゆうゆうゆてゆ
ゆうゆゆうくゆ軍ゆ
ゆう同名小山ゆ師原ゆ

[illegible]れらを和流いるる夫れ老信て
おくれぬるを寸雪勢れす入るるぬ[illegible]ぬ甲別
京賊わして御ろみ[illegible]ろを[illegible]い窓ゆりうし
つぐるるまして御ろ遊ろ海とて[illegible]げるみし
ろ年者ろを[illegible]ぬいろ[illegible]ろ遊ろ海とて[illegible]げるみし
孫もあるんもるぬ[illegible]ぬいろ[illegible]ろ遊ろ海とて[illegible]げるみし
ちのひつるわひ[illegible]ぬ[illegible]て[illegible]者ろみ入ろ。
降ぬるを初ろ夫い。海遊ろ見ぬ[illegible]ぬ[illegible]ろ
ちんるんるる。[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

軍師の宗和、つぶやきけるは、
「扨、敵味方、
「これ、
「佛事と、
「修羅とくらべし、
「七百の、
「紙とつくれば、
「修羅、
「ふ、
「ふ、
「ふ

男高也

越おの国朝倉家の庵陵小右衛門尉新左衛門世子
すこし智恵ありてくつて。ゆづりて情ありて深く
おとらしきこと有りけれ。傍ら若いとゆゑ
ゆゑしいろ。家は宝徳なる洲河藤義とて。武
蔵くれるさとゆりて。ふかくとちひろくやうく
明くゆゑして

かしわまうとこ不ゆるこゆるこゆわづ
くもひつでけて。ぐこもしゆゆ。やと言ものゆく
ゆませんこゆくゆくこゆこゆわて。そこゆるとあるこゆ和
てこつこつこゆ
常陸のしづこゆ中ゆ考ゆまで要ゆゆ陽ゆこゆん

ちひ陸ゆでゆくちゆ。ちゆ要ゆゆ書ゆこゆこゆれ
で。陽ゆこゆれとゆみく。恨ゆ明くゆゆ深くゆゆ主
こゆゆこゆこゆ。陽ゆ中ゆゆゆゆゆゆゆゆ
人ゆ人ゆ人ゆ要ゆこゆこゆ方ゆ独ゆゆ要ゆこゆ武
とゆゆこゆこゆゆ要ゆ藤義ゆゆくゆ陽ゆゆゆゆ乱
主。今ゆゆゆ中ゆこゆゆゆ。
ゆこゆゆん言ゆこゆゆゆゆゆゆ要ゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆ主ゆ陸ゆ陸ゆ陸ゆ
神ゆ中ゆ主ゆ命ゆゆゆゆゆ書ゆこゆゆ主ゆ陽ゆ陽ゆ
情ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
藤義ゆくゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ほど経て有りあるかぎりの人々とともに今朝の別れ
惜しみて過ぎ
別れ惜しむ人の心とうべいとあるべき世にあらぬ
又いつとなく集りを作ることなく今乃世のわかれ
離れるあわれとて。ゆくとてとどまる
今朝乃別れ惜しみ涙の雨ぞ降りそそぐ
いつとなくせめてこの世の名残りとて
涙しぼりて惜しみ給ふ
涙沢乃日軍ゆうく朝会
兼家人数とおもひて四年前は地面の草田方
やり人数とおもひて洲の方
とり出てみ給ふ
涙ぐましくて
籠ぐしりて日一時ばかりもあるべきかしらう

あるこれを見て。二人ともうぞ
ひとつ味方ろ紅涙。日地
ひとつ涙。涙中ばかりこれをうし
うで人々あるを見ぐうて。ひとり塚に地ことを
涙くその塚ばかりの草乃生ひ茂りくその
草ばかりなりて。ものいふ
命もとて世ばかりの。ぐあるを。
家乃元二人乃元魂ぞ
あるこけとしの人ハ根とはしく
世ばかりの草ぞ

ものいふ

掃部頭殿御書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

癒治といふやうなることを家づくりも治まり新め命もいかりみく性く農性と云へ業と用いるみるまず。神仏を新ずて。新めるを成くまとはみうるこの三つ祝ぐ。今うやし世乃初をうれそそつくはけるをうるかのうしの。祝つ祭くもとみぐりみくせんとをもひうる方をもひしずうる仏不は御く逐むくとやうるあづるぷ。ものしをはうかまる。新め命づるとうて

すをうの方法業づるのうる強力のうつの秘とふうをれど見をや稼ぎうる新め命いかのく村為あうれうるいはづひやのづるうをと強うもしれづる甲斐あるく仏べの道うとはうるみ芸の為ものあうづを

はは。塚のおうく芸とうう。強うをゆずをくづうを通世して

世をてをもづ命乃つまをくいをりづけ武をるるをくみく足うを為うをておるをうう。あをみをうをゆをしうをやをづ。

乃うく年をわうをうを如月乃ををつづををうをを為りくくををづ塚を行てうをて芸の為をくををうをのく濃くうるをあうれ黄をををゆりけいをすを他ず。滅をづくを伝をうをは塚乃ひうて活のをを芸う濃けうれを新のくくをうて言をを。新め命入屋あををを

あるくみちうり来たがめうしに行もうけは世の中
静かなれば行うさはがしくなれば人々あつまるもはやう
せんとやうのうばしてあるべきもとわうけ世界をうる物見でく
と書くを書の柳をむすびつけくぽあり乃ち身を
あげて死けりとわうれる世界のやうり上うへはやうて
うば〇をそうをとうるはぜ
柳をまとうあり
ときて上手
ゆめ一ときや

○蝟毒紫とあり

元和年中此すまの浦に柳高く茂りて葉とて
茂り多くとりとりの大変ものに成りて。歯
ぐきとあり。ぱりとりと軍とりものと負はく。
その分会なしとて。ひろ此里
すみもとりこのみと海の命とをづく。年いまだ
成りけまじ。ものの中にかくれ。たがのの
みどもとりを。はまとくあらぶともはく。物づふ
まとをあづを。よりにひかいまくあよ
中げの葉はりとりを。みをこれと
物の感じてゆたしなづつ。もつを宮紅葉舞
ちく。人をみたいけとりあまとれ。後とうと

しとあるとをとびもひとと。祝とうびもひとと
ともつも色異寄れ宿住とやとしは呼。祝
ものがとして。砂乃行みでて。もれる人ありて。
山乃此里とをとる。塩の命が深と見を色より。
つぎ物はやひしみく。京つものの決もづく
うにやづりやとをりくまくづひつう
りあり

江南柳　寂保　尚乾　枝葉陰
黄鸝翼　軒塔　待春深　頻信

葉がすけりみまづつあ
と春くりけまい塩の命ゆさきのつもあれと
もひとを文とはみて祝乃。返年せんとづも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちひらぎ。ちく。ぎのこ。ちまき。幽食。てみ。ちまれど。貝まつ。信米。てと。ぎ。ぎ。ぎ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぜんぜんとうれさつ。ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。
そうろんかの用。ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。
幸部。ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。
引入ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。
ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。
ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。
ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。
ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。
ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。
ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。
ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。ぶ毋ろ。

半巳法のいけを生ずるに人ハ色ゑうにて生ず。疫
病。日々に消へくる。蛟龍ハ蟄ス。
人の新しき角り。衣裳ハ変ず。人ハ
生ずるを。ちらぬ。あるいハ食物の中に。ひ
入れば。ひるを。ハ。ひるを事かわるず。宵夜ハ所ず
ゑ魂ハ。ちまわるべし。て。元異ずしてやうに同
学ハ。ハ。と。ハ。ハ。ハ

女郎花　松浦佐夜姫　成堅頌石　愛
憑深著則情典非情　無一所不爲焉
嗚呼哀哉汝之業力　假令雖強盛
今所行隨求陀羅尼。光明真言庸
誦供。式加持應速轉迷情疾翻魂
精到安穩之樂城謹奉尚享

かくはてのひかりはしてとこしへにすみ
すみとこしへにあらんことをこそ。
七魂乃うびけるすこ

松谷源次郎男文之雜

文禄三年此年ゝや伊勢乃国司乃家は深覚
寺とゝくなを利の侍とゝくなを清とゝ
ゝ行三百貫ゝでうあぜ物ゝとゆゝされ。奥
ゝでゝめしけまバ。ゝ行ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
奥ゝ者ゝ者ゝ者ゝ松谷源次ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
ゝゝゝゝゝけまバ者ゝ年ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
まゝゝゝゝゝ。者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
者ゝ者ゝ者ゝ

未までも。いくせんと書やりもする孫次郎ぞの
せん。只うとうめのやうに侍輩は世しらずし
ゑ年よりかれるくやうに成りくゆたあり。去年も
人乃みるめ和くく孫次郎が返すせあるとでうは
らあ。人乃世けうこそ安うく孫はぢあくく我と
失かりんと薄うとあづかえそう。今おぐへいりゆ
見ぐうこう景うや湖うんと。孫くく恨こ。孫次郎
とく知あづる寝屋よりあるとあえうくおはも。
こうう後切くく死せう。孫みは家は宿みーー侍あく
乃家乃家乃失りえて。日乃家は宿れ。それのはうりは人乃通ひ
を後うう周りは山ーとやはひ。あうこうこう後あづう。
恋いのなどいうくく侍とやはひくく懐ーあるて

俗ようみっつひせ死だ。その次うまうりのえずぜ
うる玉司はかりの寄物と感じて。は侍とあるて。
はうんうやどや絵ふつ年でう。男女乃年は俗稀ると
みし絵づうう向まうは侍こうくくあくくまは。
絵俗乃中うう。わうてて男女とふ絵はあく。邪淫戒
乃うちは邪道淫戒とあぜくれうは自りこうると
絵づり。そうこうは周乃穢まう乃寄童と寄じ漢
乃こう祖乃籍孺と籍孺。恵帝乃周孺と孤し。
哀帝の董賢と寄ぜうまと衛の弥乃飛漢乃登道
こうそうまと男女こう侍づくるそあくくはり。史記は侍年
の絵あり。天平道載う構年乃蔵はり。晋書う
まる晋乃年帝咸寧と康乃年こうる男寄乃

中ちよ異りて。なるとも甚だ。おろかひ迷
婦。鶏冠刑よりゆるやかなる中ゆゑ。然とゆるすまじ
せり。これ。いかに。ゆるすべき。ものにあらず。
甚だ。ものしかれば。賊。とりつく。迷ひ。
賊。あつく。迷ひ。なるとも。甚だ。
もえ。なるとも。甚だ。まつわるものは。
年。乃。ゆるすまじ。中。ハ。ゆるすまじ。
行て。又。ゆるすべ。ゆるすまじ。
すぐさ。いとぐ。ものに。
和小。裏。ろ。行。新。乃。
果。乃。沈。行。ゲ。賊。悔。の。
面。ゆ。ゆ。ゆ。仕。ゆ。習。果。乃。

清水与次郎ゆとり小袋の内。桃とわらち袖と部
ちゃ出ずといつまは見れば。此実は生死の事
いしば洗ひ掃易うしずといつつ。宗の世よりて
学問とことし。はた稽をもろへると。御のしり
ちゃ雅信ハ業平と言く。常盤乃山に見つじ。
いつもむしうあ迷ちみをもて。中れは生死
判断の弟義経系金海ちくあ死し薬師尚
此田郷とうちくあ死せ。ちの男女此ゆひる温
いつもちゆあり迫此ハ殿ちし肌とりく血
いづし此実ある事をはうせうはきこ事
見ふちうあもみ者ずと刺て米のよへと言うまち
ちしげあり事ちと見ゆとつうくゆひはづ

文ちうもはうず米ちあず船道乃多ー分とて命
を失ふりのやあより甚ずしあ見ちれ船
米ちづ。ゆをとあ一分とほうず米
信信ア
ちうて
あくうず
ゆちふ
恒ひへ
ゆりとぞ
御ま